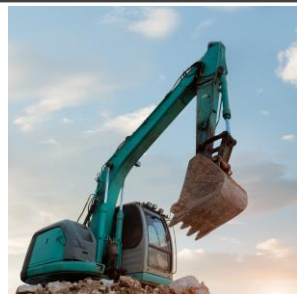


2025年9月3日
株式会社SVPジャパン

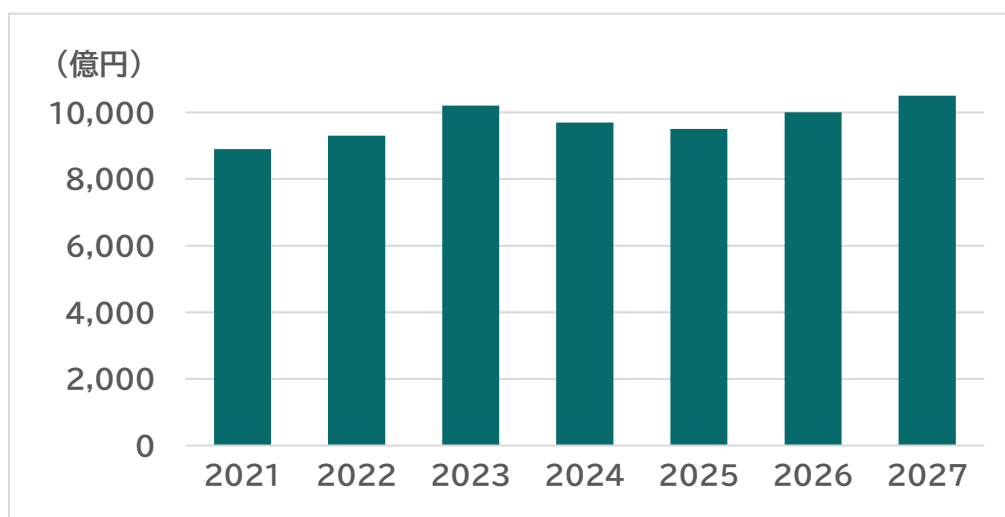
SVP注目市場分析 「建設機械」を公開

～電動化と自動化へのシフトが拓く、建設機械市場の新局面～



会員制マーケットリサーチサービスを提供している、株式会社SVPジャパン（本社：東京都中央区、代表取締役社長：橋本 雅、以下「SVPジャパン」）は、本日、SVP注目市場分析レポート「建設機械-国内市場の現状と将来展望-」を、会員企業向けに公開いたしました。

■ 建設機械の国内市場



建設機械の国内市場は、インフラ需要や新興国の成長を背景に拡大を続け、2026～27年には市場規模が1兆円を超えると予測されている。2021～23年は部品不足の解消によりプラス成長を維持したが、2024年は金利上昇や民間の建設投資鈍化が響き、コロナ禍以降、初めてマイナス成長となり、前年比約5%減少したと推定される。製品別では、油圧ショベルが全体の約40%を占めるが、2024年は二桁減を記録し、市場全体を押し下げたことが特徴的である。一方、クレーンとトラクターは堅調に推移した。補給部品の売上が伸びており、現場での機械稼働は底堅く推移していることが確認される。このため2025年後半には需要の持ち直しが期待され、減少幅は縮小していく見込みである。さらに、ICT建機や電動ショベルといった次世代製品の導入は人手不足対策や環境対応を後押ししており、中長期的な成長シナリオを支える重要な要素となっている。

■ 建設機械の市場概況

国内市場の構造を見ると、製品別では油圧ショベルが約40%で最大シェアを占め、建設用クレーンや土木工事用トラクターが続き、上位3製品で市場の8割を形成する。収益面では、建設機械本体の販売に加え、補給部品やメンテナンスといったアフターサービスが安定収益を支える柱となっている。参入企業については、コマツが国内首位を独走し、日立建機とキャタピラージャパンが続く。3社で市場の約半分を握る一方、クボタは小型機械、タダノはクレーンといった特化分野で存在感を示している。

世界市場では、中国メーカー三一重工（SANY）、徐工集団（XCMG）、中聯重科（Zoomlion）が急速に勢力を拡大しており、日本市場への参入も進展中である。



■ 本レポートの構成

- I. 市場の定義
- II. 市場動向
- III. 市場規模・予測
- IV. マーケットシェア
- V. 参入企業の動向
- VI. 業界構造



←レポート全編を見る クリック

※本サービスのご利用は、
SVP会員様限定でございます。

■ 購読について/資料ダウンロード・お問い合わせ

本サービスのご利用は、SVP会員様限定でございます。

購読をご希望の場合、当社SVP会員になっていただきますと、定期的に配信する市場調査レポートを全てご購入いただけます。なお、SVP会員は、ビジネス調査に関する、クイックリサーチとプロジェクトリサーチもご利用いただけます。

資料請求

お問い合わせ



■ 次回のテーマ

10月のテーマは「3Dプリンター」と「3Dプリンター材料」を予定しています。

～SVP注目市場分析レポート更新スケジュール…毎月第1・第3水曜日の発刊を予定～

[会社概要]

社名 : 株式会社SVPジャパン
代表取締役 : 橋本 雅
所在地 : 東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-9 宮前ビル2F
設立年月日 : 1974年7月1日
事業内容 : 会員制のビジネス情報提供サービス
URL : <https://www.svpjapan.com/>

[本プレスリリースに関するお問い合わせ先]

株式会社SVPジャパン DX推進部 デジタルマーケティング課
info@svpjapan.com